



この日の演目は創作落語「鯛(たい)」。捕まった天然真鯛の口は、はたして料理やさんのいけすから脱出できるか! ドキドキしながらもめちゃくちゃ面白い落語で、満員のお客さんといっしょに大笑いしました。

売店の一番人気は、1個130円のドラ焼き。1カ月に130~150個ほど売れます。4カ月に1度発行される情報誌『んなあほな』も好評。小中学生にオススメは1冊130円の『繁昌亭ノート』です。

「言葉だけでいろいろな世界を想像して楽しんでもらえるのが、落語の一番の魅力です。」  
神戸大学の落語研究(落語研究会)で後に弟子入りする桂吉朝さんの落語を聞いて興味を持ち、落語家への道を志した吉弥さん。吉弥という名前も吉朝さんにつけてもらっていた。学生時代はやっていた、サッカーや水泳などスポーツが得意だったとのこと。

兄弟子さんの出番の時、太鼓をたたくのを忘れてすぐ怒られたことなど失敗もたくさんあったけれど、高座でお客さんが大笑いしている姿を見ると、本当に落語をやっていると良かったと思ってしまう。「皆さんも将来、人も自分も喜び、楽しめるような仕事を見つけて下さいね」と励まされていた。

創作落語「鯛」でこの日の屋席のトリ(最後)をつとめた三枝さん。終演後、疲れた顔も見せず「いらっしやうい」とインタビューに応じてくれました。吉弥さんと同じく、大学生の時に初めて落語を見て、多くの人に想像してもらって、多くの楽しみに魅せられたそうです。とにかく一生懸命修業したうえで、電車の中でも落語の練習に没頭して、師匠の着物を入れたカバンを電車のおみこに置き忘れた失敗談も。200以上の「創作落語」でも有名な三枝さん、どんな時にアイデアが浮かびますか? 「お店に食べに行きた時など、毎日の生活のあらゆる場面、何か面白いことはないかな? といつもネタを探しているそうです。」

8月30日、2006年9月にオープンした天満天神繁昌亭に取材に行きました。ここは300年の歴史をもつ「落語」専門の定席(毎日公演している小屋)で、200人を超える上方落語家さんの落語を1年中楽しむことができます。連続テレビ小説「ちりとてちん」に出演されていた桂吉弥さん、上方落語協会の会長でテレビでもおなじみの桂三枝さん、そして三味線の林家和女さんにお話をうかがいました。



繁昌亭は地下鉄南森町駅、JR大阪天満宮駅すぐ。昼席、夜席と毎日2回公演しています。ぜひ一度、行って下さい!

# 落語の世界に いらっしやうい

こども新聞  
Create Dreams  
新

## 2011年度 第1期 こども新聞記者 活動報告



ロボットを操作するこども記者

大阪府福島の堂島リバーフォーラムで8月28日、「ナレッジキャピタルトライアル2011」というイベントが開催され、私たちこども新聞記者5人が体験取材をしました。JR大阪駅北ヤード「うめきた」に近くお目見えする「ナレッジキャピタル」を知ってもらおうというイベントで、未来のまちを体験できる数多くのコーナーがあり、大勢の人たちでにぎわっていました。

なかでも、スマートフォンを使って「足歩行ロボット」を操作するイベントが人気を集めていました。身長23センチ、体重700グラムの小さなロボットを、スマホで動かしながらサッカーゲームをしました。ロボット同士がぶつかったり、思い通りにボールを蹴ることができなかった。大阪ハイテクノロジー専門学校スタッフの方に聞くと、



電気自動車に乗るこども記者

# あふれる最先端技術 ナレッジキャピタルトライアル

「ロボットの動きは、人間と同じような動きを目標に作っています。以前は、普通の携帯電話で操作していたことも扱えなかった」という話でした。

電気自動車も、スマートフォンにも乗ってみました。とてもスタイリッシュなデザインが特徴。「グリーンロードモーターズ株式会社」の担当者にEVスポーツカーの特徴を聞くと、「二酸化炭素を出さない環境にやさしい車。しかも、スタンドに行かずに、わが家で充電できる」と答えが返ってきました。時速150キロも出ると聞いて驚きました。会場は中央ステージで「グ」といって、本当の結婚披露宴が行われていました。大手前学園がスイーツの情報発信基地をめざして提案した試み。お菓子でできた飾り物が置かれた客にはスイーツのフルコースが振る舞われ、会場いっぱい甘い香りが漂っていました。「これまでスイーツは脇役のイメージが強かったけど、十分に主役になって人を幸せにしてくれるんだと感じました。」

今回は、「ホスピタリティキッズパーク」、「ナレッジキャピタルトライアル2011」、「落語「天満天神繁昌亭」」取材しました。こども記者たちは、慣れないインタビュー体験に戸惑いながらも、質問をし、記事をまとめました。その取材記事をここに掲載します。取材にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

### こども新聞記者

講師/浅野稔氏、江原健氏 協力/(株)朝日新聞社

朝日新聞の記者と一緒に取材に出かけ、実際にやってみたり、インタビューしたり、記事を書くなどの、記者の仕事を経験します。



【取材協力】  
ホスピタリティーズム専門学校大阪/大阪プライダル専門学校  
(株)ナレッジキャピタルマネジメント 学校法人大手前学園  
グリーンロードモーターズ(株) 大阪ハイテクノロジー専門学校  
上方落語協会 米朝事務所 (株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー

## いろいろなお仕事体験 ホスピタリティ キッズパーク



運転手体験をするこども記者

大阪市西区江戸堀にあるホスピタリティーズム専門学校大阪・大阪プライダル専門学校で8月24日、「ホスピタリティキッズパーク」という子ども向けのお仕事体験イベントが開催され、私たちこども新聞記者4人が体験取材しました。

このイベントは、主に観光・プライダル業界の仕事体験できるもので、ホテルのベルスタッフやバーテンダー、駅スタッフなどの様々な仕事を学ぶことができます。また施設内には駅の改札や電車など本物そっくりの実習室が設けられていました。私たち記者も駅員と運転手、キャンペーンダンタなどの体験をしました。では、エアライン科卒業生のお姉さんとお客様との接し方や機内アナウンスについて教えてくれました。その中で「お客様の前では笑顔が基本」というのが印象に残りました。また駅員・運転手体験では、電車が来るアナウンスをしたり、本物のアケセルやブレーキに触れることが出来ました。体験後は、卒業生3名にインタビューをしました。関西空港内でグランドスタッフとして働く藤原香奈さんが仕事を選んだ理由は、「英語を使った仕事が好きなので、旅行も大好きなので、空港で働きたいと思いました。空港にいるだけで毎日楽しいです。好きなことを仕事にするのは大事だと思います」と話してくれました。さらに「外国の方と会うことも多いので、いろいろな言葉の覚え方を、まずはあひさつをします。それが大事なコミュニケーションだと思っています」。またザ・リッツ・カールトン大阪でコンシェルジュとして働く原山ゆうりさんは、「コンシェルジュ



インタビューに答える卒業生

の仕事がとてつもないと思っただけです。近畿日本鉄道で車掌として働く立石孝彰さんに仕事内容についてたずねると「運転手と連絡を取りながら、何よりも安全最優先を心がけています」と、仕事の大変さを話してくれました。